

# よきおとずれ

カトリック釧路教会だより

第15号 2019年10月1日（福音宣教の特別月間）発行



## いのっています！

ヘルマン 渡辺 義行 神父

1月に脳梗塞、4月に肺炎となりましたが、幸いにも、からだの麻痺を免れました。素晴らしい医療によることは確かですが、それとともにみなさんのおいのりのおかげだと感じ、感謝しています。

いのりといえば、兄弟ルイス・ジョイスを思い浮かべます。クララ会のためにチャリティーコンサートが開かれたとき、そのプログラムにルイス・ジョイスがクララの姉妹たちの生活を紹介する言葉を書きました。

誰かに、「クララ会のシスターたちは何をしていますか」と尋ねられたら、わたしはこう答えます。「祈っています」と。すると、さらに尋ねるでしょう。「ええ、それは解っていますが、ほら、クッキーを作るとか、学校で教えるとか、病院で働くとか、何かこれといったことをしているのですか」と。それに対して、私の体験をお話しいたしましょう。その文章を要約すると、こうです。

ルイスは、脳腫瘍で入院していました。覚悟はできているといっても、ふと不安になる日もあります。何もできなくなった中で、様々な人が来てその人たちの愛と好意を深

く感じ、その愛がルイスの生命に意味を与え、生きるための闘いを応援してくれるばかりでなく、世の中の人、すべての手助けとなっていると感じていたのです。

人が、「神父さま、あなたのためにお祈りします」と言うとき、ルイスは「神父さま、あなたを愛します。」という心を感じるのでした。クララ会のシスターたちの生活についても同じことが言えるのではないかとしています。

いのりは、何よりも、まず、人を思う気持ちの表れでしょう。それが感謝となり、賛美となって湧き出てくるのでしょうか。いのりでわたしたちはつながっているのではないのでしょうか。



## 私の軌道

ボナヴェントゥラ 養島克哉 神父

神の導きは偉大です。人の目には不幸に見える出来事も、当の本人にとっては神の元へと回心するために必要な出来事であったということがあります。

今回、カトリック釧路教会で表題の講演をして欲しいとの依頼を受け、私自身の歩んできた軌道を振り返りました。そして、神様はいつも私が望んできたこととは反対の道を示しご自分の元へと導いてくださっていたことに改めて気づかされた次第です。8月25日、皆さんの前で恥を忍びつつお話しさせていただいた中から、私が神様に頂いた導きのいくつかをここで紹介させていただきます。

司法試験の準備をしていた私は23歳の頃、東京で原因不明のめまいに襲われました。数々の病院で検査を受けましたが原因はわかりませんでした。進退窮まった私は、友人の勧めで浅草にある浅草寺へお参りに行き、そこでおみくじを引いたところ、百本のうち三本しかないといわれる”大凶”をひきあて、そこに書かれていた「いますぐ地元に戻るべし」の言葉どおり、失意の中すべてをあきらめて釧路へ帰ってきたのであります。急に襲ってくる原因不明のめまいに万事休すの状態だったので



す。釧路のT眼科で検査を受けたところ(世界に三台しかないという装置により)、すぐに眼鏡の医療事故であることが判明しました。半年かけてめまいは完治しましたが、すべてを失ったと感じていた私は何もする気がおきず、親のすねをかじる放蕩生活を始めました。母はそんな私を見捨てず黙って支えてくれました。

神様の計らいは偉大です。私はこの出来事を通じて、自分のことばかりを考えてきた人生を振り返り、周りの人や母が喜ぶために生きたいと思うようになっていきました。当時の私はなんでもかんでも法律で相手を論破するかなり困った人間で、法律家になりたいという動機自体も自分の名声や社会的地位を得るためでした。しかし、周囲の人の優しさや母親の温かさに触れて人生観が変わっていったのです。すべてをあきらめて釧路へ帰ってきた当時の私は、自分が闇のなかへ落ち込んでいくような感覚に襲われていましたが、実際は神の手によって闇の中から光の方へと導かれていたのであります。あのまま何事もなく歩み続けていたら、感謝できるという幸せを知らずに生きたことでしょう。そう思うだけでぞっとします。

国家資格をとって働いていた私は、やがて帯広教会へと導かれていきました。そし

て、主任司祭のナルチゾ神父様の勧めにより司祭職の道を歩むこととなります。初めて会ったとき、ナルチゾ神父様は私に「ようこそいらっしゃいました、あなた“シンプ”になりませんか」と声をかけてくださいました。私は結婚相手（新婦）を紹介してくれるのだと思い込み、すぐさま「はい、喜んで」と答えました。しかし一週間も経たないうちに、それが”新婦”ではなく生涯独身の”神父”であったことを知り、神父様にお断りの気持ちを伝えにいきました。するとナルチゾ神父様は「あなたは人（自分）の声ではなく、神の声に聞き従わなければならない」とおっしゃったのです。私が神父になるという噂を教会中に広めた張本人はナルチゾ神父様でしたので、なんて勝手なことを言うのかと私は怒りましたが、

これらの出来事もまた、神様の大きな計らいの一つだったのです。神の声に従わなければならないという言葉は、今の私を作り上げ、司祭になった今も私を支え続けています。

その後、どこの馬の骨ともわからない私を帯広教会の皆さんは本当に大切にしてくださいました。徐々に私は今度は自分が誰かのために支えになればと願うようになり、ついに自らの意志で神父になりたいと申し出るに至ったのであります。

神様は必ず良い方へと導いてくださる。この確信を今後の司祭生活を通じて皆様にお伝えしていきたいです。

「闇の中でも主はわたしを見ておられる。夜も光がわたしを照らし出す」（詩 139）  
御高覧ありがとうございました。

「春分の日大輪咲かす我が息子は使命を帯びて司祭の道へ」

蓑島智恵子（蓑島神父様のお母さま）

## 夏の交流会

8月4日ミサ後に交流会を行いました。45名の参加があり、炎天下での開催でしたが、日陰を利用して気持ちよく、バーベキューを楽しみました。



## 合葬墓地が完成しました

『主のうちにある絆は死によって絶ち切られるものではない』



合葬墓地外観



合葬墓地内部

### 10月は「福音宣教の特別月間」です。

教皇フランシスコは、今年10月を「福音宣教のための特別月間」と定められ、福音宣教への新たな熱意を教会内に生み出すようにと、世界の教会に向けて呼びかけられています。

### 編集後記

7月発行のミサ再発見21の裏面に「信心深い婦人と神様」というキリスト教ジョークが書かれていました。神様が3回もボートを送ってくださったのに信心深い婦人はそのことに気がつかず、死んでしまったというのです。

私自身、今までどれくらい神様からの導きに従ってきただろうか？日々の生活の中でアンテナをはりめぐらし、神様の導きをキャッチできるように祈りの時間を通じて、もっともっと神様と仲良しになりたいと思う今日、この頃です。主の平和！ (K.K)

カトリック釧路教会 <https://kushiro-catholic.cloud-line.com/>

〒085-0018 釧路市黒金町12丁目10

TEL 0154-22-5823 FAX 0154-22-5832

教会だより 編集：広報委員会